

日本土壤肥料学会

創立 100 周年記念事業

公開シンポジウム

食・土・肥料

SDGs 達成のための基礎科学として

ファシリテーター



山口亮子
(ジャーナリスト)



藤井一至

2023/7/29 (土) 10:00-16:15

東京農業大学 世田谷キャンパス 百周年記念講堂
小田急小田原線経堂駅 徒歩 15 分 (渋谷駅よりバス路線あり)

参加
無料

対象
学生・一般市民

同時配信! ZOOM Webinars
500 名まで

第一部 10:15-11:40 世界の食・土・肥料は今どうなってる?

第二部 13:00-14:55 食・土・肥料のサイエンスで SDGs !

第三部 15:10-16:10 パネルディスカッション

申込は
こちら!



食・土・肥料

SDGs達成のための基礎科学として

今、世界の食システムは困難な時期にあります。食は豊かさの象徴ですが、本質は私たちの生きる基盤であり、SDGsの中心となるものです。

世界がSDGsの達成に努力する中、「つくる責任、つかう責任」、「気候変動対策」、「海の環境保全」、「陸の環境保全」は食料の生産や消費に関わる問題です。さらに、食料生産や消費は窒素やリンの循環、生物多様性喪失、気候変動、土地利用変化の問題にも深く関わります。

これまで、地域の土地の生産力と環境保全力がその地域の人口を支えてきました。しかし、これからの気候変動でそれらをどのように維持し見直すのかが持続可能性のカギとなります。

本シンポジウムでは食システムにおける土壌科学と肥料科学の貢献と課題を今一度考えます。さらに、世界の食料と農業の多様性を認識し、責任ある食システムの構築に向き合うきっかけとなることを目標としています。

第1部「世界の食・土・肥料は今どうなってる？」（10:15-11:45）

- 『世界の土壌と農業の多様さ』 藤井一至（森林総研）
- 『土地の人口扶養力』 篠原信（農研機構）
- 『植物と施肥の関係』 樋口恭子（東京農大）
- 『肥料の来た道行く道』 木村武（日本土壌肥料学会）
- 『土と暮らしのリデザイン』 松田法子（京都府大）

第2部「食・土・肥料のサイエンスでSDGs！」（13:00-14:55）

- 『土と胃袋とトイレを結ぶ』 湯澤規子（法政大）
- 『市民の力を活用した温室効果ガス削減微生物の探索』 大久保智司（東北大）
- 『微生物の制御による土壌養分採掘と炭素貯留の両立』 早川智恵（宇都宮大）
- 『鉄と微生物をイネの肥料にする新技術』 増田曜子（東京大）
- 『岩と土のケミストリーで農のカーボンニュートラル』 中尾淳（京都府立大）
- 『データサイエンスで篤農家の匠の技を明らかにする』 市橋泰範（理化学研究所）
- 『食の確保と地球温暖化防止のための施肥戦略』 犬伏和之（東京農大）

第3部「パネルディスカッション 食・土・肥料」（15:10-16:15）

◇ ファシリテーター 藤井一至、山口亮子（フリージャーナリスト）

◇ パネリスト 篠原信、松田法子、湯澤規子、市橋泰範、波多野隆介（北海道大）

生産性と環境保全は両立できるか？

化学肥料は減らせるのか？

有機農業をどう活用する？

消費者は何ができる？

夢のある農業をめざして